

キャンプでの様子

そのほか

竹串を作ったり、火おこしをしたり、はらわたを取り除いた魚を炭火で焼いたり、生地から作ったピザを釜で焼いたり、普段はできないような貴重な体験ができました。

そのほか、食事の準備や後片付けなどに多くの子どもたちが積極的に参加、みんなで協力的にできました。



有限会社ノア STEAM教育研究所

キャンプ、その後 ～アンケート～

アンケート調査

サマーキャンプ終了後にアンケート調査を実施し、参加12名/9家庭のうち8家庭から回答を得られました。

まず今回のサマーキャンプに申し込んだポイントとなった事柄（複数回答可）として、

- 自然体験ができる（87.5%）
 - アクティビティが眼新しく種類が豊富（87.5%）
 - タブレットやドローンの活用（75.0%）
 - 宿泊体験できる（50.0%）
 - 教育委員会の後援がある（50.0%）
 - 参加費が安い（37.5%）
- （P4の表もご参照ください）

との結果となり、自然体験を中心としたアクティビティに関心が高いことがうかがえます。また、タブレットの活用やドローン操作などデジタルテクノロジーへの期待も高かったようです。

有限会社ノア STEAM教育研究所

キャンプ、その後 ～アンケート～

アクティビティの期待度と満足度

次に各アクティビティに対する事前期待度と事後満足度の調査（5段階）では、期待度、満足度ともに高く、満足度が期待度を下回ったものも絶対評価としては高レベルであると言えます。

注目は立木伐採体験で、期待度がそれほど高くなかったこともありますが、満足度が1ポイント上昇し、評価点も最高点タイとなっています。これは、迫力のある伐採を体験できたこともさることながら、自分たちで工夫を凝らして高さを推測し、実際の高さに近い数値を導き出したこともその要因ではないかと考えられます。



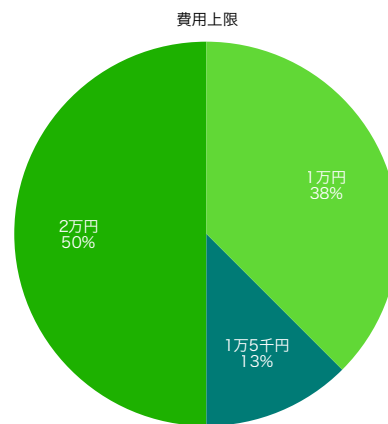
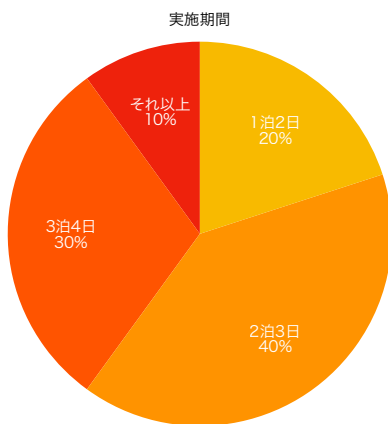
	期待度(1)	満足度(2)	(2)-(1)
オリエンテーション	3.17	3.33	0.16
野菜収穫	3.00	3.67	0.67
魚掴み取り	4.50	4.50	0.00
冷中華づくり	3.50	3.17	-0.33
昆虫採集	3.83	4.33	0.50
火おこし体験	4.17	4.00	-0.17
星空観察	3.63	-	-
ドローン操作	4.13	4.17	0.04
ピザづくり	4.13	4.50	0.37
立木伐採	3.50	4.50	1.00
BBQ	4.13	4.33	0.20
花火	4.13	4.00	-0.13
宝探し	4.00	-	-
記念撮影	3.00	3.83	0.83

有限会社ノア STEAM教育研究所

キャンプ、その後 ～アンケート～

実施期間と参加費用

次回開催への希望として実施期間並びに費用の上限について聞いたところ、実施期間（複数回答可）は今回同様の“2泊3日”と1日増の“3泊4日”で70%を占めました。参加費用の上限は“2万円”が半数、を占めましたが、補助事業で実施した今回が格安だったことが、費用感を引き下げた要因であると思われます。



有限会社ノア STEAM教育研究所

キャンプ、その後 ～振り返り教室～

サマーキャンプの思い出をまとめる

キャンプ後に夏休み期間を利用して、撮影した写真や動画、スケッチなどをまとめるための振り返り教室（無料）を実施しました。写真や動画を見ながらキャンプでの出来事を振り返り、何をどのようにまとめるか絵コンテを描いて構想を練り、それを文書作成ソフトやプレゼンテーションソフトでまとめていくというものです。

画像や動画を取り入れ、配置や文字の大きさ・色などを工夫し、数ページにおよぶまとめができました。



有限会社ノア STEAM教育研究所

キャンプ、その後 ～振り返り教室～



有限会社ノア STEAM教育研究所

次回開催に向けて

総括

コロナ禍での自粛生活が長期間に渡り、自然の中での活動や宿泊を伴う協働活動などの機会がほとんどなかったことから、それらに対する渴望が保護者、児童生徒ともに強くあったことが、今回多くの応募があった要因の一つと考えます。そして子どもたちにとって、それら自然体験や協働活動から実体験として得られるものは非常に大きく、今回の参加者にも多くのものを持ち帰ってもらえたのではないかと考えています。

またその自然体験の中で、デジタルテクノロジーを活用してより深い学びに繋げていくための実証として、今回のサマーキャンプは貴重でありました。

その中で次回に向けた新たな施策として、まとめフォーマット（テンプレート）を事前に用意し、アクティビティの中で撮った写真、動画、スケッチなどをすぐにまとめられるようにすること、そしてその時間を確保するためにタイムスケジュールに余裕を持たせることなどのアップデートを図ることで、より充実したものになるはずです。

子どもたちの中に芽生えた小さな灯をより輝かせるために、この経験を次のステップへと繋げていくことが重要であり、自然体験とデジタルテクノロジーを融合させた新しいサマーキャンプのあり方を今後も広めていきたいと考えます。